



女性会長を先頭にチームワークを育んでいる



賑わいを見せる成瀬まつり

恒例のもちつき大会

月1回、街頭をパトロールする

南成瀬ひふみ町内会



サポーター制度も導入 めざせワンチーム

南成瀬ひふみ町内会(上野恵会長)では、毎月の防犯パトロールに20人前後が参加。集客力の高いイベントも運営するなど、地域の魅力向上への先導役を果たしている。キーワードは「チームワーク」。就労世代も無理なく町内会活動に参加してもらう「行事サポーター制度」にも取り組む。

★ 2004年に発足した防犯パトロール隊では現在、不法投棄や道路陥没、街路灯の球切れといった住環境の点検なども行われている。何気なく生活している町内でも、巡回してみると発見は意外と多いものだ。段ボールが捨てられていたり、公園の樹木の枝が道路にせり出していたり。

問題が見つかれば行政に知らせるのだが、同会は市の通報アプリ「まちびか町田くん」を積極活用。スマートフォンで現況写真を撮影し、位置情報をマップに入力すれば、簡単かつ正確に市役所へ伝わる仕組みだ。副会長の久米淳文さんは「休日でも夜間でも通報できますし、電話よりも手軽」と利用促進を呼びかける。

成瀬駅前広場を交通規制して毎年開催する成瀬まつりは、周辺町内会と商店街で共催する市内有数のイベントだ。今年は新型コロナの影響で

見合わせた。過去33回の開催を数え、盆踊り大会や芸能人の歌謡ショーなどが盛大に行われる。ひふみ町内会単独のもちつき大会も、会場の南成瀬小学校に400人以上を集め、70kgのもち米がべりりと平らげられる盛況ぶりだ。

一方、町内会は全857世帯で構成されているが、年々加入率は減少しており、地域活動を支える担い手が「行事サポーター制度」。仕事や子育てで忙しい就労世帯でも身の丈に合った関わり方ができるように、特定行事に限定して手伝える人を募る仕組みだ。上野会長は「町内会活動は敷居が高く感じられがちですが、『行事のお手伝いだけなら』という人は結構います。まずは無理なく楽しんで関わってもらって、町内会への理解が深まれば」。

幅広い世代に届くソーシャルネットワークを活用し、「フェイスブック」を呼び掛けた。町内会活動の参加を呼び掛けるだけでなく、同町内会の目下の自慢は、高ヶ坂・成瀬地区連合会主催のソフトバレーボール大会での4連覇。自慢のチームワークで魅力あるまちづくりを進める。

らぶ♡ふあみ

らぶ♡ふあみ のびのび成長中

フリーマガジン『らぶ♡ふあみ』町田で子育てLifeを楽しむ』は市内で子育てをする家族を応援する地域情報誌だ。市内在住の子育てママ5人が2017年9月に創刊し、これまでに6号を発行している。

★ A5判の誌面は毎号16ページ以上。1万3000部発行され、市役所や保育園などに配架される。子連れでも安心な飲食店や美容室をはじめ、授乳室、子どもトイレの場所など、子育て奮闘中のママにとって役立つ情報を「ママ目線」で紹介する。

元々、「市内の便利情報をまとめた情報誌を作ろう」と意気込んだ5人だったが、苦労の連続だった。冊子づくりは未経験。技術を学びに関連会社に教えるを請い、資金集めで広告営業にも取り組んだ。また、取材予定があっても子どもの体調次第で再調整しなければならない難しさも痛感。子どもの見守り担当も設けるなど業務に打ち込める環境を整え、すべての工程を行っている。

「それでも発行し続けるのは大変」と代表の西行恵さん。そんな時は不安でいっぱいだった初産を思い出す。「今、子育て真っ最中の家族にとつて必要な情報を届けてあげたいんです」。発行後にはママからの感謝の声に加え、最近では「孫と出かける場所が増えた」とシニア世代からの声も増えたという。読者の声が次号への原動力となっている。

読者から要望に答えて誕生したのが「らぶ♡ふあみ掲示板」だ。スキルのあるママによるヨガ教室や音楽教室といった習い事情報、ママたちのグループ活動を掲載する。制作意図を「子育て中のママは孤立しがち。誌面を介して誰かとつながる場になれば」と西行さんは話す。

今年是一般社団法人日本地域情報振興協会の「日本地域情報コンテンツ大賞」に初エントリー。全国で発行されるフリーペーパーやタウン誌の中で、中間発表では全体4位と健闘したが結果は受賞ならず。だがメンバー一同は、「冊子を通して多くのつながりを持つことができたことが幸せ」と前を向く。表紙を飾る子どもたちのように、らぶ♡ふあみは町田市民に愛されながらのびのびと大きくなっているようだ。配布先は公式HPで確認を。

■らぶ♡ふあみ事務局
infoloverfam@gmail.com
https://machidovfam.amebaownd.com/



「それでも発行し続けるのは大変」と代表の西行恵さん。そんな時は不安でいっぱいだった初産を思い出す。「今、子育て真っ最中の家族にとつて必要な情報を届けてあげたいんです」。発行後にはママからの感謝の声に加え、最近では「孫と出かける場所が増えた」とシニア世代からの声も増えたという。読者の声が次号への原動力となっている。



編集会議では他誌やママ友の情報を頼りに企画を練る



制作メンバー



過去発行の誌面